現地実習の様子

木の宿場「林業塾」を開催！

2月9日(土)

兵庫県で活躍中の林業家、中嶋彩さんをお招きし、「目的を持った選木」をテーマに、約20人が町内外から参加しました。

選木とは、山主が自分の山をどんな山にしたいか計画し、伐るべき木と残す木を決めることです。選木について学ぶ中で、各々が自分の目指すべき山の形を考え、活発な意見を交わしました。

卒業生による合唱

平成最後の卒業式

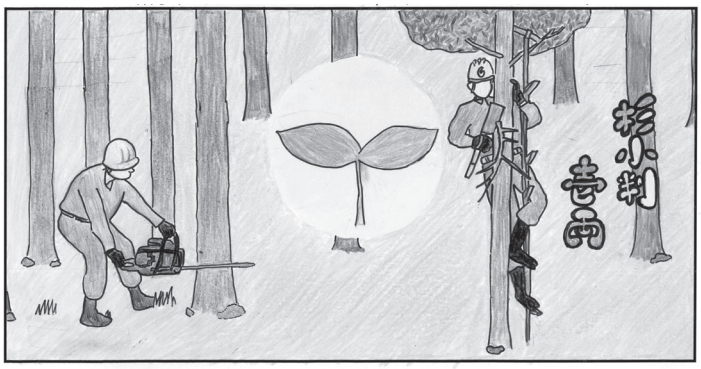
3月11日(月)智頭中学校

平成最後となる卒業式が行われ47人の生徒が卒業しました。

三年間学校で過ごし、喜怒哀楽を共にした仲間や先生、育ててくれた家族に対して感謝の気持ちを伝えました。

学校生活という経験を土台にし、新しい門出に向けて大きな一歩を踏み出しました。

見事受賞した児童たち



金杉賞を受賞した杉小判デザイン

更なる活躍に期待

2月20日(水)智頭小学校

杉小判デザインコンクール表彰式を開催しました。

杉小判とは、木の宿場実行委員会が発行している地域通貨で、一枚千円分として町内の幅広い商店で使うことができます。

杉小判は主に木の宿場実行委員会に木材（2mまたは1m）を搬出することや、検診やウォーキングイベント参加などで付与される健康ポイントを貯めることで貰え、毎年千枚以上町内で流通しています。

そんな杉小判をもっと親しみやすくする目的で、毎年智頭小学校の4年生から6年生の児童たちに杉小判のデザインをしてもらっています。今年は6人の作品が賞に選ばれました。

杉の表彰状と杉小判を贈呈された児童たちは、うれしそうに杉の表彰状の香りを楽しんでいました。

今回受賞した作品は平成31年度の杉小判に印刷されます。是非様々な活動に参加して、町内での買い物に役立ててください。

新たな時代の幕開け

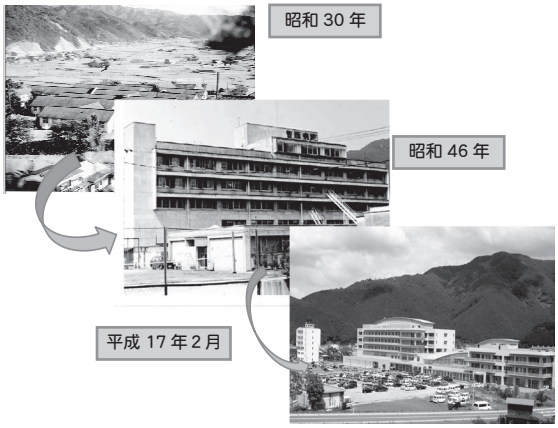
事業管理者

「平成」という一つの時代が4月30日に終わり、平成は30年と4ヶ月でその歴史に幕を閉じ新しい時代を迎えようとしています。

智頭病院は、昭和30年6月15日に新築開院以来、本年で昭和の時代34年間と併せて64周年を迎えました。

当時「町営病院を建設して町民の保健衛生に万全を期す」という、先人の熱い想いが実現し、以降、昭和46年に全面改築、そして平成17年には全国にも例のない三位一体施設「智頭町保健・医療・福祉総合センターほのぼの」の竣工と、幾多の変遷を経て現在に至っています。

しかし、今この病院運営は楽観視できるものではなく、日本全体に少子高齢化が顕著に進む中で、本町においても年々人口減少が続いており病院規模の縮小や、他機能への変更も余儀なく検討しなければならない時を迎えつつありますが、何はともあれ、町民の「病院がなくては困る」という切なる願いをいつまでも達成できるよう、皆さんの命と健康を守り、治す医療だけではなく生活を支える医療の充実をめざし、「智頭に住んで良かった」と思っていただけるよう、地域の皆さんに支えていただきながら、新たな時代に即応した病院づくりを進めてまいります。



町民に信頼される看護・介護を目指して

看護部長

看護師は、多くの専門職と協働し、様々な健康レベルの人々の「からだ」と「生活」を支えています。智頭病院の「信頼と連携」「地域貢献」「安心と安全」という理念のもと、看護部は一人一人を大切にし、信頼される看護・介護の提供に努力しています。

智頭町は全国に先駆け超高齢社会となっています。そして国は、「病院完結型」から「地域完結型」にシフトしていく政策がとられ、益々看護師の役割は重要になりました。看護職も地域医療を担う一員として、医療の部分だけでなく、地域につなげるために、幅広い領域で働くことが出来る看護職を育成することが大切になります。

職場、そしてこの地域を通し、自他共に成長し、住民から信頼され、安心して頂ける質の高い看護・介護の提供ができるよう努力を続けいきたいと考えています。

職員のユニフォームがリニューアルします

平成31年度から、全職員のユニフォームがリニューアルします。それを記念し看護師のユニフォームの変遷について紹介いたします。

看護師のユニフォームは時代の変化に大きく影響を受け、変化・進化してきました。

看護の始まりは、中世に宗教界が、病人の看護にのりだした時に始まったといわれています。当時の看護に関わったとされる修道女や尼僧の服装の様に、最初のころの看護師のユニフォームは袖も丈も長い服でした。

その後『看護の母』ナイチンゲールの影響で白のワンピースと予防衣姿に変わり、日本にも導入となりました。

問合せ先　国民健康保険智頭病院　総務課　☎75－3211